

医療通訳ボランティア育成カリキュラム推奨研修 医療通訳ボランティアに必要な知識、能力とスキル、倫理、対応力を身につける

医療通訳ボランティア育成基準の対象者に対して医療機関等での通訳活動開始前の推奨研修

クラス項目	時間数	頁	達成目標	内容
医療通訳者の役割	1.5	8-10	・医療通訳とは何か、その役割と立場について理解し、医療通訳者として身につけてはいけない知識、能力とスキル、倫理について知る。	医療通訳者の役割
		基準		医療通訳者に必要な知識、能力とスキル、倫理
		15-17		対話通訳と相互作用
言語プロフィール	3	26-27	・現在の自分の言語プロフィール（言語能力や話し方の特徴、言語を習得した方法や環境によって獲得している知識に違いがあることなどについて）を把握する。 ・用語集（研修で学んだ用語などについて）を作成する方法を学ぶ。	言語プロフィール
		28-29		用語集の重要性と作成方法
専門職としての意識と責任（倫理）	4.5	416-417	・医療通訳者としてどのように行動するべきかの倫理や行動規範について理解し、それに則った対応や姿勢を身につける。 ・医療通訳育成カリキュラム基準、医療通訳者の行動規範を中心に、「人権尊重」「忠実性と正確性」「中立性と公平性」「誠実さと信頼性」「私的な関係の回避」「能力の限界を知る」「守秘義務とプライバシーの尊重」「礼儀とマナー」について取り上げ、各項目の基本的な考え方を理解し、演習を通じてどのように実践するか学ぶ。	行動規範 人権尊重 忠実性と正確性 中立性と公平性 誠実さと信頼性 私的な関係の回避 自分の能力の限界を知る 守秘義務とプライバシーの配慮 礼儀とマナー
		39-49		
身体の仕組みと疾患の基礎知識	6	52-61	・医療現場で行われる会話を正確に理解するために、身体の仕組みと疾患に関する基礎知識、関連用語を学ぶ。 上記以外、地域のニーズや実態にあわせて「循環器、呼吸器、消化器、筋・骨格系、腎泌尿器と内分泌・代謝系器官、眼科・耳鼻科・歯科・皮膚科領域、精神と脳・神経系、産婦人科領域、小児科領域」について取り上げる	身体の仕組みと疾患の分類の基礎知識
検査に関する基礎知識	1.5	64-72	・臨床検査・画像検査を中心に主な検査の種類・目的や検査方法・検査時の注意事項など検査に関する基礎知識、関連用語を学ぶ。	検査の種類と注意事項（臨床検査と画像検査）
薬に関する基礎知識	1.5	78-81	・処方薬を中心に薬の種類と分類、飲み方、お薬手帳などの薬に関する基礎知識、関連用語を学ぶ。 ・感染症の主な種類と感染経路や予防接種など感染症に関する基礎知識、関連用語を学ぶ。	薬の種類と飲み方（処方薬と市販薬）
感染症に関する基礎知識		86-91		主な感染症と感染経路
通訳に必要な通訳技術	3	96-101	・これまで学習した「身体の仕組みと疾患の基礎知識」「検査に関する基礎知識」「薬に関する基礎知識」「感染症に関する基礎知識」で学んだ内容や関連用語についての用語の確認を行う。 ・医療通訳が用いる逐次通訳について理解し、通訳することとはどういうことであるか、通訳エラーはどのようにして起こるのか、通訳プロセスを通じて理解する。 ・通訳プロセスを成功させるために必要な技術を身につける。	逐次通訳とは
		102-108		通訳技術のトレーニング
	2	148-151		ノートテキング
	2.5	152		模擬通訳（受診の流れ）
日本の医療制度に関する基礎知識	1.5	124	・医療機関（施設）の種類、医療従事者の種類とその役割、各診療科の種類、医療機関の流れなど、日本の医療制度についての基礎知識と関連用語を学ぶ。	日本の医療制度の特徴
		128-129		医療従事者の種類とその役割
		133-135		各診療科の種類
		136-137		医療機関の受診の流れ
1.5	138-144	・医療保険制度と公費負担医療制度を中心にその内容、対象者など医療保障制度についての基礎知識と関連用語を学ぶ。	社会保険制度、医療保険給付、公費負担医療制度	
医療従事者と患者の文化的および社会的背景についての理解	1.5	156-157	・患者の権利と責任、患者の心理と医療従事者の心理を理解する。 ・日本に暮らす外国人の現状、外国人患者の受診、在留資格や滞在ビザについて理解する。 ・健康や医療、コミュニケーションに関連した生活習慣や価値観、宗教観や思想などの文化的・社会的違いを理解する。	患者の権利と責務
		160-162		日本に暮らす外国人について
		163-164		外国人患者の受診
		165-169		外国人患者の在留資格と滞在ビザ
医療通訳者のコミュニケーション力	3	174-176	・コミュニケーションとは何であるかを理解し、コミュニケーションに影響を与える言語、非言語メッセージについて理解する。 ・異文化による衝突や誤解、偏見が生じている原因を両者に気づかせ、相互理解を促す「文化仲介」について理解し、適切な場面で活用できるようにする。また、「権利擁護」と「文化仲介」の違いや対応場面を理解する。 ・医療通訳者が直面するであろう問題について取り上げ、その場面に適した調整や対応方法について理解する。	健康や医療、コミュニケーションに関する文化的・社会的違い
		177-188		言語・非言語メッセージ
		193-196		患者との接し方
		197-204		医療通訳者の文化仲介
205-206	通訳時に直面する問題とその対応			

医療通訳者の自己管理	1	207	・ 万全な体調で業務にあたるための感染予防と体調、メンタル管理の必要性について理解し、ストレスやバーンアウトなどの予防法、対処法について知る。	医療通訳者の健康管理
		208-209		医療通訳者の心の管理（ストレスとその関連疾患についての理解と予防）
通訳実技	6	212-213	・ 通訳を行う前の事前準備や情報収集の重要性と検索方法について理解する。 ・ 通訳者の立ち位置とその影響、通訳業務の流れとその対応について理解する。 ・ 研修で学んだ知識や能力やスキル、倫理を活用してさまざまな場面に対応した通訳ができる。	情報検索の重要性と検索方法
		214-216		医療通訳業務の流れとその対応
		217-219		通訳者の立ち位置とその影響
		224-239		場面別模擬通訳 (科日問診、診療科、検査、状況別)
合計	40			

推奨実習

クラス項目	日数	頁		内容
実習前オリエンテーション	0.5	246-247	・ コーディネーターの指導のもと、実習の目標を設定し、実習計画を立てる。 ・ 実習するにあたって行動規範を確認し、実習に向けての準備を行う。	実習目標の設定
				業務内容、実習計画の確認
		416-417		行動規範の確認
通訳実務実習	1	218-253	・ 実習先医療機関の組織、各部門の機能や役割を理解する。 ・ 病院各部門の連携と流れを理解する。 ・ コーディネーターの指導のもとで研修で学んだ知識や能力とスキル、倫理を現場で実践する。	病院施設の紹介と見学
	4			業務報告・記録